

安川 哲生 議員



一問一答方式

①市の財政状況と市長の市政運営

②林業

③農業

④市の文化財を活用した観光

市の財政状況と市長の市政運営について

問 令和2年度一般会計当初予算では、前年度比で、16億6千万

円、約5.8%の増となっている。

二宮市長は市長選挙の際に様々な公約を掲げていたが、それらの公約実現も含め、どのような思いを持って予算を編成されたのか。

答 当初予算で私が公約に掲げた5つの目標の実現に向けて編成した事業の主なものについて、健やか
に暮らせるまちづくりでは、健康寿

命を延ばす取り組みとして、市民の健康維持と体力向上を図るため、総合体育館の運動器具を活用したトレーニング教室を開催することとしています。

活力あるまちづくりでは、交流人口の拡大を図るため、町家、古民家を改修し、宿泊施設等として活用する事業を推進し、地域経済の好循環と本市の知名度上昇につなげたいと考えています。

安全・安心なまちづくりでは、道路橋定期点検で部材の老朽化が判明した新畑の前大橋と白滝大橋を2年間で大規模改修を行うほか、父橋の更新は、国、県の河川整備計画のもと4年間で愛媛県へ事業を委託することとしています。

農業について

問 行政の役割として、相談から就農、営農定着までのきめ細やかな支援を確立し、新たな担い手を確保することで耕作放棄地を解消する考えはないか。

答 耕作放棄地の解消には、様々な要因があるため、担い手の農地集積や企業、農業法人といった新規の参入を促進しながら、農地の有効

活用を行うことが肝要です。

その対策のうち、新規就農希望者などに対する相談や支援体制は、サポートチームを編成し、新規就農相談をはじめ、初期段階での営農活動や施設整備への計画策定支援を進めています。

新規就農者への支援では、経営が不安定な就農直後の所得を確保する農業次世代人材投資資金、次世代ファーマーサポート事業など、国、県の補助事業を導入しながら様々な支援策を講じています。

さらに、市単独の事業では、施設整備に係る経費を支援する農山漁村地域担い手等支援事業や、国の補助対象外の新規就農者を支援する農山漁村地域新規参入確保育成支援事業により、担い手の確保、支援に取り組んでいます。

今後も、多様な担い手への農地集積を推進し、農地の維持、保全に努め、地域ぐるみで行う営農活動などへ支援を引き続き行い、耕作放棄地の解消に努めていきます。

市の文化財を活用した観光について

問 町家、古民家の改修だけでは、観光客誘致につながらないおそ

れもあり、観光名所までの動線を整備しなければ、相乗効果が生まれな
いと思うがどうか。

答 観光動線の整備は、平成23年度に大洲市観光案内サイン整備計画を策定し、平成24年度から平成27年度にかけ、肱南、肱北地区で一体的に整備しました。

一方で、多様化する観光客のニーズへの対応や訪日外国人観光客の増加に伴う多言語化も対策が必要と考えており、案内サインによる直接的な案内だけでなく、スマートフォンアプリなどでの対応も検討する必要がありますと考えています。

案内サインを含めた観光客にわかりやすい誘導方法については、観光庁の補助金などの活用も含め、計画的に進めたいと考えています。



整備した観光案内サイン